

第 39 回卒業式 式辞

校庭の木々に新しい芽が膨らみ、確かな春の息吹を感じる今日の佳き日に、佐伯謙作播磨町長様をはじめ多数のご来賓並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、兵庫県立播磨南高等学校 第 39 回卒業証書授与式を挙行できますことは、学校にとりまして、この上ない喜びでございます。高いところからではございますが、ご臨席賜りました皆様に厚くお礼申し上げます。

まずは、ただいま卒業証書を授与しました 39 回生 148 名の皆さん、御卒業おめでとうございます。このおめでとう、という言葉は、三年間の皆さんの努力に対する賞賛の言葉であると同時に、明日を担う皆さんへの大いなる期待と激励の言葉でもあります。

また、今日までお子さまを物心両面から支え、励ましてこられた保護者の皆様、お子さまのご卒業、誠におめでとうでございます。御入学から本日までの間、本校の教育活動に御支援をいただき、心からお礼を申し上げますとともに、こうして卒業式を迎えることができましたのは、保護者の皆様の御理解と御協力の賜物と、深く感謝申し上げます。

さて、振り返ると 39 回生の皆さんとの思い出は多々ありますが、一緒に行った南九州修学旅行がとても印象深いものでした。日南海岸の海で大はしゃぎしている君達の笑顔、夜の学年レクリエーションでの盛り上がりは君達全員の温かい笑いが会場を包み、とても心地よい時間でした。また、縄文杉を目指して歩いたトレッキングは、君達について行くのに必死の私に「校長先生大丈夫ですか」と優しい言葉をかけてくれました。君達と一緒に見た縄文杉の雄大さは今も鮮明に覚えています。また、潮風祭でのアイデアと工夫をこらしたクラス劇、体育祭では団として応援の先頭に立って活躍してくれました。

そんな 39 回生の皆さんのイメージを一言で表すと「陽」という字になります。陽は太陽の陽です。ふりそそぐ太陽の光のような柔らかい明るさと温かさを持っている人が多いのがこの 39 回生です。皆さんはコロナ禍での不自由な中でも明るく前向きに学校生活を送ってくれました。その明るさは単に明るい「明」ではなく、太陽の光のようにポカポカ

した温かみを持った明るさの「陽」だと私は感じています。この「陽」の温かみのある明るさをこれからの人生でも大切にしてください。まずは自分自身の心を温かくしてあげてください。これから社会に出れば困難な状況にぶつかることがあるでしょう。そんな時に自分の心を温めて前に進んで行く力にして欲しいと思います。そして周りの家族や友人の心をポカポカと温めてあげてられる存在になってください。

これから皆さんが進んでいく社会は変化が大きく予測ができない時代だと言われています。ChatGPT などの生成 AI と呼ばれる人工知能の発達には驚嘆すべきものがあります。今や AI は、パソコンやスマホをはじめ社会の様々なところで活用されています。これからさらに発展して、今、人がやっている仕事の多くが AI にとって代わられると言われています。しかし、AI がどれほど発達してもその AI を使って人の役にたつことができるのか、AI を使って人を傷つけるのか、それは使う人しだいであり、この先、科学がさらに発展し社会が変化しても、最後は人だということを覚えておいてください。皆さんがこれから自分自身をどう成長させ、どんな人になって行くのかが大切になってくるのです。

播磨南高校を巣立っていく皆さんが自らの意志を持ってより良い社会をつくるために行動する人として大きく成長してくれることを心より願っています。

最後になりましたが、ご来賓の皆様、並びに保護者の皆様のご臨席に、重ねて感謝申し上げますとともに、今後とも、本校へのご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

皆さんは今日で本校を卒業し、これからそれぞれの道を歩んでいきます。この先、迷い悩むことがある時は、いつでも母校を訪ねてください。私たち教職員は、皆さん一人一人の新しいステージでの活躍を心から応援しています。

皆さんの限りない前途が、健やかで、幸多からんことを祈念して式辞といたします。

令和 7 年 2 月 28 日 兵庫県立播磨南高等学校 校長 黒岩 寛